

子午線



令和4年9月1日
9月号
三木市立三木小学校



コロナ禍でも充実した2学期に

学校長 小紫 達矢

いよいよ2学期が始まりました。子どもたちはそれぞれご家庭でどのように夏休みを過ごしていたでしょうか。提出されたポスターなどの作品を見ると、子どもたちが頑張ってきた様子が想像されます。この経験を活かしながら2学期のスタートダッシュを期待しています。

さて、去年は兵庫県に8月20日に緊急事態宣言が発出され、9月12日まで兵庫県内の全域が対象となり、緊急事態宣言真っ只中で2学期が始まりました。今年度、緊急事態宣言等は発出されていませんが、兵庫県で感染者が1万人を超える日が何日もありました。三木市よりも早く2学期を始めた地域の学校で、行事の見直しをするニュースも出ていました。学校を再開するにあたり、コロナ感染に十分に注意して子どもたちを迎えなければいけません。

免疫学の第一人者で大阪大学大学院名誉教授の宮坂昌之さんという方がおられます。宮坂先生は、最新のデータを紹介しながら日々SNSでコロナやそのワクチンについて発信しておられます。

その宮坂先生が著書の中で、コロナウイルスを雨に、免疫力を分厚いコートに例えて感染について説明されていたことを紹介します。



	厚いコートを着ている(免疫強い)	厚いコートを着ていない(免疫弱い)
小雨(ウイルス少ない)	ほとんど雨に濡れない (コロナにほとんど感染しない)	雨に濡れてしまうことがある (コロナに感染する可能性がある)
大雨(ウイルス多い)	雨に濡れてしまうことがある (コロナに感染する可能性がある)	すぐに雨に濡れてしまう (コロナにすぐ感染してしまう)

免疫の弱い人が大量のウイルスを浴びるとすぐに感染してしまいます。大雨で薄着だとすぐにびしょびしょになるのと似ています。ワクチンを打ち免疫が強くなった人は、厚いコートを着ているようなもので、少しの雨では濡れない(感染しない)が、大雨だと濡れてしまう、つまり感染してしまう。(ただし、重症化はしにくいそうです。)ですので、免疫を強くし、ウイルスを大量に浴びないことが大切です。

では、学校でできることは何でしょうか？ 学校でワクチンを打ったりして免疫を強くすることはできません。できることは、上表の雨(ウイルス)を少なくすることです。当たり前の対策に戻ってしまいますが、マスクの適切な着用、十分な換気など改めて感染対策を徹底いたします。

子どもたちにとって、その学年の2学期は一度きりです。修学旅行、自然学校、校外学習など、子どもたちが楽しみな行事も予定しています。子どもたちにとって充実した2学期にするため、職員一同尽力して参ります。ご家庭におかれましても、ご家族それぞれの感染予防、子どもたちの日々の健康観察など、何卒ご理解・ご協力をお願いいたします。